

「飾り物」の手引き I

飛騨高山・伝統の「飾り物」をつくる

高山市指定無形民俗文化財

高山の飾り物保存会

小瀬 信行

はじめに

1

- ・飛騨高山の飾り物は、天領時代からつづく「すきびごと」で二三〇年の歴史をもち、**高山市が発祥の地**であります。
- ・すきびごととは、趣味人の心のおもむくままに楽しむことで、市民の暮らしの中に息づく伝統文化でもあります。
- ・また頭の体操ともいえ、気軽に誰でも楽しんで参加できます。
- ・毎年の干支と歌会始のお題、記念行事が主なテーマとなります。

飾り物の形式

飾り物の三つの形式

一つは作りもので、蓑をくるくる丸めてイノシシに似せる。

二つは判じもので、市町村合併に鉾を飾り大きく「なった」と「鉾」を掛ける。ナゾかけです。

三つは見立てもので、市制30周年に幅の違う角帯三本を巻いて三十年の年輪に見立てる。

このうち「見立てもの」が高山の飾り物の主流です。

見立てものとは

「見立て」とは、なぞらえることで「擬える」の文字が適当で、

道具をいかにテーマに似せるか、擬えるか、と解釈できます。

飾り物をつくる着眼点

2

- ・飾り物を仕立てる着眼点は、発想第一、道具が第二、飾りつけ第三といわれ、この三拍子揃った作品が「軽妙洒脱」な作品だと高い評価を得ています。
- ・軽妙洒脱な作品とは、軽快で妙味があり洒落ている作品です。
- ・飾り物は、作者がテーマに対し発想し、道具を選び、組み合わせ、配置や飾り方など、試行錯誤しつつ見立てて作品とします。
- ・見立てた作品がどう共感を得るか、飾り物の醍醐味といえます。

発想・着眼点のポイント(令和二年の例から)

「テーマそのもの」に着目する。

干支の「鼠」の場合 俵のねずみ 大国鼠

歌会始のお題「望」の場合 望月

「テーマのことわざ、熟語」に着目する。

干支の「鼠」の場合 窮鼠猫を噛む

歌会始のお題「望」の場合 待望 祝賀御列

テーマの「文字を使った言葉」に着目する。

干支の「鼠」の場合 ねずみ花火

歌会始のお題「望」の場合 望遠鏡

道具の選び方と使い方について

3

道具とはなにか

- ・物を作り、また事を行うのに用いる器具です。
- ・器具とは、うつわ しくみの簡単な器械などです。
- ・うつわとは、いれもの、物を入れおさめるものです。
- ・木や金物、その組み合わせ、紙や布、また陶磁器でも茶道具はよく使われます。壊れ易い道具は扱いに注意が必要です。
- ・琴柱、馬鈴、分銅などは、複数(セットもあり)からなる道具ですが、単独でも道具として認められ、よく使われています。
- ・基本的に動物や植物は、道具として使うことができません。

道具の種類とは

- ・種類とは、いくつかの個体に共通の性質によって分類しまとめたものです。共通の性質という点に留意が必要です。
- ・大工道具なら鉋や鑿、墨壺は大工仕事の同じ種類の器具です。
- ・春慶塗なら、重箱に取り皿、箸や箸置き、お盆に徳利の袴などは、食器に関係する共通の性質の道具です。
- ・お祭りのときに使う印籠、櫛子、棒提灯などは祭道具ですが、印籠は一般的に提げ物、あと食器、照明具と種類が違います。

- ・春慶塗の箸置きと春慶塗の花入れの場合は、春慶塗 4

の道具としては同じでも、食器と花器で種類が違い、飾り物の道具の組み合わせとしては的確ではありません。

道具は同じ種類三点以内で、形を変えずに

道具一点の考え方

- ・お盆一枚なら一点、茶入れ一口なら一点、三段重の場合は三つ重ねで一点です。また琴柱、左官の饅、茶杓や茶筌など、複数使っても同種類の道具として一点と見なされます。

道具を選ぶ場合

- ・道具は三点以内、釣り合いや質感、上手か下手かも大切です。
- ・高価な道具や骨董品でなくても味わいある道具が理想です。

道具の形を変えずに、ということ

- ・道具の形を変える、ということは、道具の質や状態、ありさまを、それまでとは異なったものに変質させることです。
- ・変質とは、分解したり切ったりして状態を変えることです。
- ・墨壺を立ててもお盆を裏返しても、道具の質や状態は変わらず、置き方を変えただけで変質させたことにはなりません。
- ・道具を変質させず使い方の創意工夫を競うのが飾り物です。

飾り付けの妙味と道具の増減について 5

展示スペース内の釣り合いを考慮

- ・展示スペース100cm×90cmの中に見栄えよく配置し
作品と空間のバランスを考えることが大切です。
- ・作品の下にお盆や袱紗などを敷き、区画された空間をつくり、
作品を際立たせる「飾り方」も妙趣ある展示方法の一つです。

道具を減らして作品とした例

- ・自分の飾り物の例で説明しますと、
「大国ねずみ」は、小匏を3から1へ引き算して決めた。

道具を増やして作品とした例

- 「展望タワー」は、箸置きを1から4に足し算して決めた。

終わりに

- ・飾り物は、テーマに対し発想し、見立てにつかえる道具を探し、
飾りつけを試行錯誤するなど、いろんなポイントがあります。
- ・作品が固まると、これで「良い」と自己満足し納得しがちです。
- ・しかし留意していただきたいことは、一步引いて自分の作品を
客観的に見つめ直すということで、飾り物には大切な点です。
ぜひ飾り物に挑戦してみてください。(文責小瀬信行 2020.02.15)